



日仏交流160周年
1959 Anniversaire
des relations
Franco-japonaises

LA PASSION DE
JEANNE D'ARC

DAÏNAH
LA MÉTISSE

横浜フランス月間 2018
フランス映画祭 2018
関連企画



展覧会／特集上映

映画誕生と共に
歩んできた歴史

Exposition/Rétrospective

Gaumont, depuis que le cinéma existe

À occasion du Mois de la France à Yokohama 2018
et du Festival du film français au Japon 2018

●展覧会 Exposition

- 第1期: 横浜赤レンガ倉庫1号館 2Fスペース…6.13(水)～6.24(日)
du 13 au 24 juin à Yokohama Red Brick Warehouse No. 1 2F
- 第2期: YCC ヨコハマ創造都市センター 3F…6.27(水)～7.6(金)
du 27 juin au 6 juillet à YCC Yokohama Creativacity Center 3F
- 特別展示: アンスティチュ・フランセ東京…6.14(木)～7.29(日)
Du 14 juin au 29 juillet à l'Institut français du Japon - Tokyo

●特集上映 Rétrospective

- アンスティチュ・フランセ東京…6.14(木)～6.16(土)／6.29(金)～7.22(日)
à l'IFJT les 14, 15, 16 juin, et du 29 juin au 22 juillet
- ゲスト Invités: 青山真治(映画監督) Shinji Aoyama／クリス・フジワラ(映画批評家) Chris Fujiwara／濱口竜介(映画監督) Ryusuke Hamaguchi
岡田秀則(国立映画アーカイブ主任研究員) Hidenori Okada／須藤健太郎(映画批評家) Kentaro Sudoh
- 横浜シネマ・ジャック&ベティ…6.16(土)～6.20(水)／6.28(木)～7.13(金)
au Yokohama Cinéma Jack & Betty du 16 au 20 juin et du 28 juin au 13 juillet
- ゲスト Invité: 柳下美恵(サイレント映画ピアニスト) Mie Yanashita



INSTITUT
FRANÇAIS
アンスティチュ・フランセ東京
Japan

vivre
les
cultures



展覧会 Exposition

Gaumont, depuis que le cinéma existe

横浜フランス月間2018／フランス映画祭2018 関連企画

『Gaumont 映画誕生と共に歩んできた歴史』展



第1期 1ère partie **入場無料**

会場：横浜赤レンガ倉庫1号館 2Fスペース 横浜市中区新港1-1-1

会期：6.13(水)～6.24(日) 11:00～19:00 (最終入場18:30)

お問合せ：アンスティチュ・フランス横浜 (045-201-1514)、横浜赤レンガ倉庫1号館 (045-211-1515)

第2期 2ème **入場無料**

会場：YCC ヨコハマ創造都市センター 3F 横浜市中区本町6-50-1

会期：6.27(水)～7.6(金) 11:00～20:00 (最終入場19:30)

お問合せ：アンスティチュ・フランス横浜 (045-201-1514)

特別展示 Exposition spéciale rétrospective **入場無料**

会場：アンスティチュ・フランス東京 新宿区市谷船河原町15

会期：6.14(木)～7.29(日) 11:00～18:30 (土日祝 11:00～17:00)

お問合せ：アンスティチュ・フランス東京 (03-5206-2500)

フランスの映画会社Gaumont(ゴームン)は、映画の誕生から120年以上に渡り、時代や世代を越え、映画作家と共に冒険をしてきました。そして、今もなおフランス映画界で新しい才能と製作の発展に貢献しています。

本展覧会は、2015年のパリでの開催を皮切りに、東南アジア(シンガポール、ミャンマー、タイ他)、およびラテンアメリカ(キューバ、メキシコ、ペルー他)を経て、日本に上陸します。現存する世界最古の映画製作会社ゴームンの偉大なる功績を発見するまたとない機会となるでしょう。

「フランス映画祭2018」および「横浜フランス月間2018」の一環として開催される本展は、ゴームンの歴史と、1000本以上におよぶ豊かなゴームン映画の名作の数々と出会う旅へと皆様を誘います。また、日本開催に際し、映画史における日仏交流のエピソードを特別に付け加えました。実際に映画の中で使用された小道具や衣裳、代表作のポスター、サウンドトラックの視聴、100本以上の映画の名シーンの上映などを通して、ゴームン映画の現在にいたるまでの変遷を辿りましょう。

Bon voyage et bon Festival! (良い旅を、そしてフランス映画祭とゴームン映画の特集上映も是非お楽しみください!)



レオン・ゴームン (1895年)



クロノ・デメニー・ゴームン 35mm

レオン・ゴームン・カンパニー (1897年)
シネマトグラフ・リュミエールのように、撮影・
現像・映写の機能が切り替え可能なマシン。
*ゴームン・ミュージアム所蔵



『恋多き女』
(監督：ジャン・ルノワール / 1956年)
イングリッド・バーグマン演じる主人公エレーナの衣装。
ワンピースはNYBCの衣装デザイナー、バーバラ・カリ
ンスカによるもの。

衣装デザイン：アンドレ・バルド
*ゴームン・ミュージアム所蔵

Gaumont
映画誕生と共に歩んできた歴史



Le Fils du flibustier (海賊の息子) 撮影時のルイ・フィヤード
(左から二人目)

『ドン・ジョヴァンニ』

(監督：ジョセフ・ローゼン / 1979年)
ルッジェーロ・ライモンディ演じる
主人公ドン・ジョヴァンニの帽子

衣装デザイン：アナリサ・ナサッリ・ロッカ
*ゴームン・ミュージアム所蔵



『Gaumont 映画誕生と共に歩んできた歴史』展

主催：Gaumont、アンスティチュ・フランス日本、横浜赤レンガ倉庫1号館(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)、特定非営利活動法人YCC(YCCヨコハマ創造都市センター)

協賛：全日本空輸株式会社 パートナー：横浜市、ユニフランス、日産自動車株式会社 特別協力：KADOKAWA、ザジフィルムズ

「映画にみる日本とフランス10のエピソード」執筆：岡田秀則 訳者：手束紀子、石原香絵 デザイン：ニルス・ジャスト、秋山京子 印刷：株式会社プロテック

Exposition : Gaumont, depuis que le cinéma existe

Organisée par Gaumont, l'Institut français du Japon, Yokohama Red Brick Warehouse No. 1 (Yokohama Arts Foundation), YCC Yokohama Creativecity Center

Avec le soutien d'ANA Partenaires : la Ville de Yokohama, UniFrance, Nissan Motor Co., Ltd. Merci à KADOKAWA, Zazie Film

10 Milestones sur le cinéma entre Japon et France : Hidenori Okada Traduction : Noriko Tezuka, Kae Ishihara Graphisme : Nils Just, Kyoko Akiyama Impression : Protech

フランス映画祭 2018

unifrance.jp/festival/2018
#FrenchCinema

2018.6.21(木)-24(日)

横浜みなとみらいホール
イオンシネマみなとみらい 他

Festival du film
français
au Japon

音楽、美食、映画、展覧会など おとも子供も楽しめるフランス文化の祭典!

横浜フランス月間2018

MOIS DE LA FRANCE A YOKOHAMA

2018.6.7(木) - 7.14(土)

「横浜フランス月間」は、
2005年より続く、
日本で唯一のフランス文化と
美食の祭典です。
期間中、様々なイベントが
開催されます。
街がフランス色に染まるこの時期に、
ぜひ横浜にお越しください!

主催・お問い合わせ：
アンスティチュ・フランス横浜 (旧・横浜日仏学園)
045-201-1514
www.institutfrancais.jp/yokohama/
f o アンスティチュ・フランス横浜

アンスティチュ・フランス横浜 検索

Rétrospective

特集上映「ゴーモン映画～映画誕生と共に歩んできた歴史～」

フランスの名だたる映画監督たちの作品を手掛け、フランスの映画史を塗り替えてきたゴーモンの歴史を辿るべく、映画黎明期から現在に至るまで日本未公開作を含め、ゴーモン映画の傑作セレクションをお届けします。東京会場では豪華なゲストを迎えたトークショー、横浜会場では柳下美恵によるサイレント作品のピアノ伴奏も予定しております（敬称略）。※注記のあるもの以外は、日本語字幕付きでの上映となります。

1 ゴーモン創成期 1895年～1929年 La Création de la Gaumont : 1895 - 1929

“ゴーモン”、このとある帝国の名は、のちに映画そのものの代名詞となった。それは一人の男、1895年にL.ゴーモン社を設立したレオン・ゴーモン(1864-1946)の名前である。リュミエール兄弟により映画が誕生した後、レオン・ゴーモンは1896年に会社の事業拡大のため、社長秘書のアリス・ギィに短編映画の製作を任せる。そして1907年、ルイ・フィヤードが“ベルヴィルの小さな会社”、ゴーモンの扉を叩く…。

世界初の女性監督アリス・ギィ傑作集

Alice Guy femme pionnière

1873年生まれのアリス・ギィは22歳で映画製作に身を投じ、映画黎明期に世界初の女性監督となる。アリスはゴーモン社の社長レオン・ゴーモンの秘書として働いていたが、リュミエール兄弟により映画が誕生した後、1896年に会社の事業拡大のため、短編映画の製作を任されるようになる。その後も多くの作品を監督し、短編映画『キャベツ畑の妖精』などが成功を収め、同社の映画製作責任者に就任。監督、プロデュース、脚本などを務めた。アリスは生涯20年以上映画製作に携わり、関わった作品はおおよそ1,000本以上にのぼるともいわれている。



アリス・ギィ

上映作品：

キャベツ畑の妖精 La Fée aux choux [1900年／1分]

第一級の産婆 Sage- femme de première classe [1902年／4分]

キリストの生涯 La Naissance, la vie et la mort du Christ [1906年／38分]

他21本 計75分



『第一級の産婆』© Gaumont

ルイ・フィヤードの時代 1907年～1925年

Les Années Louis Feuillade

「フィヤードの映画で私が感嘆するのはその驚くべき、詩情に満ちた直感だ。非常に日常的な要素から神秘、夢を創造し、まるで呼吸するかのようにシュールレアリスム的世界を生み出している。」
——アラン・レネ

ルイ・フィヤード(1873-1925)は、レオン・ゴーモンとアリス・ギィにそのシナリオを高く評価され、ゴーモンに入社。生涯に渡り800本以上の作品を監督した。フィヤードは歴史、神話などの、様々なジャンルの先駆者であり、代表作として挙げられる『ジューデックス』や『ディ・ミン』、そして今回お届けする、新たに4Kで修復された犯罪活劇映画二作『ファントマ』と『レ・ヴァンピール』では、失われつつある当時のパリ、純粋なる視覚的幸福の瞬間をフィルムに記録し、その撮影方法は、後に、ヌーヴェル・ヴァーグの作家たちに大きな影響を与えた。



ルイ・フィヤード

ファントマ Fantômas [1913年]

第1話 ファントマ／ベルタム事件 [59分]

第2話 ファントマ対ジューヴ警部 [64分]

第3話 ファントマの逆襲 [98分]

第4話 ファントマ対ファントマ [62分]

第5話 ファントマの偽判事 [75分]



© Gaumont

神出鬼没の怪盗ファントマを主人公とした連続活劇。ビエール・スーヴェストルとマルセル・アランの新聞連載小説をフィヤードが映画化。当時のフランスのシュルレアリストたちを熱狂させた。



『ファントマ』ポスター © Gaumont

レ・ヴァンピール 吸血ギャング団 Les Vampires [1915年]全10話

第1話 首なし死体 [39分]

第2話 殺しの指輪 [17分]

第3話 赤い暗号文 [48分]

第4話 幽霊 [38分]

第5話 死者の逃亡 [45分]

第6話 幻惑する眼 [72分]

第7話 サタナス [55分]

第8話 稲妻の主 [65分]

第9話 毒の人 [60分]

第10話 血に染まった結婚 [68分]



© Gaumont

第一次世界大戦中に製作され、フランスで大成功を収めた連続活劇。パリで次々と起こる怪事件、その背後にギャング団(ヴァンピール(吸血鬼たち))の存在があることを知った新聞記者フィリップは、ヴァンピールの正体を突き止めるべく孤軍奮闘。さらに催眠術師モレノも加わって、1910年代のベル＝エボックのパリを舞台に大犯罪絵巻が繰り広げられる。当時、ヴァンピールの女首領イルマ・ヴェップが人気を呼び、役を演じた女優、ミュージドラをシュルレアリストたちが絶賛した。

2 トーキー初期に生まれた傑作、 カルト的コメディ 1930年～1974年 Des premiers films parlants aux comédies cultes : 1930 - 1974

1929年10月4日、世界初のトーキー『ジャズ・シンガー』が、オペール劇場で上映され、1930年5月3日、ゴーモンが製作した初のトーキー、レオン・ス・ペレ監督『Quand nous étions deux(二人だった時)』が公開される。

反逆児、ジャン・ヴィゴ

Jean Vigo l'insoumis

たった1本の長編と3本の短編を残し、29歳で夭折した天才映画作家ジャン・ヴィゴ(1905-1934)は、世界に向けるその独創的な視点によって、数多くの映画監督、とりわけフランソワ・トリュフォーをはじめとするヌーヴェル・ヴァーグの作家たちに多大なる影響を与えてきた。無遠慮であると同時に叙情的であり、反逆と優しさが同居したヴィゴのスタイルは、「呪われた作家」として、アルチュール・ランボーと比較される。今回は特別に4K修復版を日本でプレミア上映。(『アタラント号』は、2017年のカンヌ国際映画祭「カンヌ・クラシック」にてお披露目された)

※ジャン・ヴィゴ作品4K修復版は、アイ・ヴィー・シー配給によりシアター・イメージフォーラムほかに劇場公開！

◆オープニング特別上映 Ouverture

新学期・操行ゼロ Zéro de conduite

[1933年／フランス／49分／モノクロ／デジタル]

新学期、いたずら盛りの少年たちが寄宿舎に帰ってくる。規則づくめで牢獄のような生活に、少年たちの反逆が始まる！猛烈なアナーキズムと自由で詩情に満ちた監督第3作。



© 1933 Gaumont

アタラント号 L'Atalante

[1934年／フランス／88分／モノクロ／デジタル]

出演：ディタ・パルロ、ジャン・ダステ、ミシャル・シモン
ル・アーブルと上流の田舎町を往復する解アタラント号の若き船長は美しい妻を迎えるが、新妻は都会の誘惑にかられ、船を抜け出してしまふ…。離れていながら、恋焦がれ、悶え合うふたりの平行モンタージュはまさに映画のみが描き得る愛のシーン。



© 1934 Gaumont



タイトルの変更前、一枚のみ現存しているジェルリックによる「アタラント号」(1934年)のポスター © Gaumont



『アタラント号』の公開時のポスター。タイトルが「過ぎ行く船(しりふ)」となっている。© Gaumont



ミシェル・ゴンドリーによる「アタラント号」のポスター(1990年) © Gaumont

ジャン・グレミヨン、現代的女性とともに

Jean Grémillon, grand portraitiste de la femme moderne

「ジャン・グレミヨン(1901-1959)は、詩的レアリズムの継承者であり、また現代的な映画作家でもある。『ある女への愛』でミシュリーヌ・ブレール演じる登場人物は、ロッセリニにおけるイングリッド・バーグマンと同時代の登場人物といえる。彼女たちは、愛への献身と、社会的、職業的独立との間で引き裂かれた女性だ。。」——ドミニク・バイーニ



© Gaumont

混血児ダイナ Dainah la métisse

[1931年／フランス／51分／モノクロ／デジタル]

出演：シャルル・ヴァネル、ハビブ・ベングリア、ローランス・クラヴィウス
豪華客船で夫と共に旅行中のダイナは、エキゾチックな魅力を悩ましまでに漂わせていたが、ある日、姿を消してしまふ…。「父帰らず」(‘30)に続くジャン・グレミヨンのトーキー第2作。

白い足 Pattes blanches

[1949年／フランス／104分／モノクロ／デジタル]

出演：シュジー・ドレール、ポール・ベルナル、フェルナン・ルドゥー
ブルターニュ地方の離島に若い女性医師マリーがやってくる。次第に島の生活にも慣れるマリーだったが、破産した城主ケリアデックをいたずらに誘惑し、また彼の腹違いの弟モーリスと恋に落ちてしまふ。



© Gaumont

ある女への愛 L'Amour d'une femme

[1954年／フランス＝イギリス／103分／モノクロ／デジタル]

出演：ミシュリーヌ・ブレール、マッシモ・ジロッティ、ギャビー・モルレー
ブルターニュ地方の離島に若い女性医師マリーがやってくる。次第に島の生活にも慣れるマリーだったが、一時的に島に滞在しているアンドレと恋に落ち、アンドレは、彼女に仕事をやめ、自分と結婚するよう求めるが…。



© Gaumont

ジャン・ルノワールによるフランスの物語

Jean Renoir, histoires d'en France

マルセル・パニョルは、マルセイユ郊外の自分の撮影所で、自らの作品の常連俳優をジャン・ルノワール(1894-1979)に紹介する。これをきっかけに生まれたのが、ネオリアリズムの先駆的作品とされ、南仏の移民たちの生活を描いた『トニ』だった。その後、アメリカ時代を経て、15年ぶりにフランスでの撮影にあたり、ルノワールは大好きなモンマルトルを舞台に、ムーラン・ルージュの誕生物語を選んだ。



© Gaumont

トニ Toni

[1934年／フランス／90分／モノクロ／35mm] ※英語字幕のみ

出演：シャルル・ブラヴェット、セリア・モンタルヴァン、マックス・ダルバン
地中海沿岸の街に定期的にやってくる季節労働者のイタリア人トニは下宿屋の娘マリーに好かれているが、彼自身はぶどう園主の娘ジョゼファに想いを寄せていた。そして、この恋がトニを悲劇へと導いていく。

フレンチ・カンカン French cancan

[1954年／フランス／105分／カラー／35mm]

出演：ジャン・ギャバン、フランソワーズ・アルヌール、マリア・フェリックス
ベル＝エボック期のパリを舞台に、「ムーラン・ルージュ」誕生までを描いた大群像劇。切なくも愛おしく、多幸感溢れるフレンチ・ミュージカルの金字塔。



© Gaumont

サッシャ・ギトリ、すばらしき語り部

Sacha Guitry, le beau parleur

「あらゆる偉大な映画作家と同様にサッシャ・ギトリ(1885-1957)は映画をあらたに作り変えた。映画がトーキーになった時、ギトリはすぐにそれが自分の創造力をさらに発揮できる機会になることを察知し、純粋なる映画を作り出したのだ。」——オリヴィエ・アサイヤス



© Gaumont

夢を見ましょう Faisons un rêve

[1936年／フランス／80分／モノクロ／デジタル]

出演：サッシャ・ギトリ、ジャクリーヌ・ドリュバック、レイミュ
愛する女を待つ男の元に、ようやく女が現れ、二人は一夜を過ごす。翌朝、女の夫が弁護士の事務所を訪れ…。『『夢を見ましょう』において重要なのは、あくまでも声だ。声が物語を生み、声が物語を続行させ、声が登場人物を分割さえる。』——「サッシャ・ギトリ 都市・演劇・映画」梅本洋一



© Gaumont

とらんぶ譚 Le Roman d'un tricheur

[1936年／フランス／81分／モノクロ／デジタル]

出演：マルグリット・モレノ、ジャクリーヌ・ドリュバック、ビエール・アシ
ギトリが自身の小説『詐欺師の物語』を脚色・監督・主演したトーキー2作目。盗みがバレ、一夜にして孤児となった少年がモナコのカジノでプロの詐欺師となり、カフェで回想録を執筆する…。『ギトリはエルンスト・ルビッチのフランス人の兄だ。』——フランソワ・トリュフォー



© Gaumont

デジレ Désirée

[1937年／フランス／98分／モノクロ／デジタル]

出演：サッシャ・ギトリ、ジャクリーヌ・ドリュバック、アルレッティ
大臣のフェリックスと内縁関係にある女優のオデットは、非の打ち所がない召使、デジレを雇う。ある晩、女中のマドレーヌはデジレが夢の中で女主人の名前を呼ぶのを聞いてしまい、大臣は隣で寝ているオデットがデジレの名前を呼ぶのを聞いてしまふ…。



© Gaumont

カドリーユ Quadrille

[1937年／フランス／95分／モノクロ／デジタル]

出演：サッシャ・ギトリ、ギャビー・モルレー、ジャクリーヌ・ドリュバック
女優のポレットは、恋人フィリップの事務所でパリ滞在中のアメリカ人俳優カールに出会う。ひよんなことから、ポレットはカールに友人の名前を騙り、フィリップはポレットが出演している舞台のチケットをカールに贈り、知らずしてふたりの再会をお膳立てしてしまふ…。

マックス・オフェルスと女たち

Les Femmes de Max Ophüls

流麗なカメラワークと演出で多大な影響を与え、生涯を通じ“女”を撮り続けた巨匠、マックス・オフェルス(1902-1957)の5本の作品を一挙上映。



© Gaumont

ヨシワラ Yoshiwara

[1937年／フランス／92分／モノクロ／デジタル]

出演：ビエール・リシャール＝ウィルム、田中路子、早川雪洲
20世紀初頭。吉原に身売りをした大名の娘が、ロシアの勤勉な海軍将校と運命の出会いを果たすが…。オーストリアで歌手、女優として活躍した田中路子と名優、早川雪洲が共演。



© Gaumont

明日はない Sans lendemain

[1939年／フランス／83分／モノクロ／デジタル]

出演：エドウィージュ・フィエール、ジョルジュ・リゴー、ダニエル・ルクルトワ
モンマルトルのキャバレー。気品と美貌で人気の踊り子エヴリンは、一人息子の母でもあった。ある日、昔の恋人に再会した彼女は、今の姿を見せたくないためにある行動に出るが…。運命の愛を貫こうとする女性の姿を描いたオフェルスのメロドラマ。



© Gaumont

マイエルリンクからサラエヴォへ De Mayerling à Sarajevo

[1940年／フランス／95分／モノクロ／デジタル]

出演：エドウィージュ・フィエール、ジョン・ロッジ、エーメ・クラリオン
オーストリア＝ハンガリー帝国の皇位継承者フランツ・フェルディナント大公は皇室から疎まれていたが、チェコ人の伯爵令嬢ゾフィーと出会い、恋に落ちる…。驚愕のラスト・ショットまで、オフェルスの流麗なカメラワークが冴え渡る史実を基にした作品。



© Gaumont

快樂 Le Plaisir

[1952年／フランス／93分／モノクロ／デジタル]

出演：クロード・ドーファン、ダニエル・ダリユ、シモーヌ・シモン
モーパッサンの短編をオムニバス形式で映画化。第1話では夜遊びを続ける夫に手を焼く妻を、第2話では田舎で休暇中の娼婦達を、第3話ではモデルに苦しめられる画家を描く。ヌーヴェル・ヴァーグの監督たちがこぞってオマージュを捧げる傑作。



© Gaumont

たそがれの女心 Madame de...

[1953年／フランス／100分／モノクロ／デジタル]

出演：ダニエル・ダリユ、シャルル・ボワイエ、ヴィットリオ・デ・シーカ
舞台は1900年。ベル＝エボックの華やかなパリ社交界。ダイヤの耳飾りをめぐり、運命の歯車にもてあそばれる上流階級の男女の間模様を描いたメロドラマの傑作。フランス映画史を彩りつけたダニエル・ダリユの香り立つような魅力が堪能できる。

過激なるロベール・ブレッソン(1901-1999)

Le Radicalité de Robert Bresson

「いわゆる“自然さ”、必ずしも“自然と見える”ことにブレッソンは関心がない。動く映像と音を用いて、もっともっと神秘的な何かを探索する。私たちを、悪魔のような、あるいは神のような私たちの本質を、もちろん肉眼では見えないが、カメラからは見える何かを。」――フロランス・ドゥレ



罪の天使たち Les Anges du péché [1943年／フランス／97分／モノクロ／35mm] 出演：ルネ・フォー、ジャンー・オルト、シルヴィー ドミニク女子修道院を舞台に、犯罪者の更生を志す修道女とそれを拒む少女との対峙を描いたブレッソンの長編デビュー作。



抵抗 -死刑囚の手記より- Un condamné à mort s'est échappé [1956年／フランス／100分／モノクロ／デジタル] 出演：フアン・ワルテリエ、シャルル・ル・クランシュ、モーリス・ペールブ ロック ドイツ占領下のリヨンで、レジスタンスのフランス人将校が逮捕された。ドイツ軍の手によって、脱走不可能と謳われた監獄に入れられるが、生き延びることを決意した彼は、身の回りの品を使って、脱獄計画を進めていた…。実話を基にしたサスペンス・アクション。

優雅なるジャック・ベッケル(1906-1960)

Jacques Becker, l'élégance française

「フランス映画を作る良い方法は幾つかある。ジャン・ルノワールのようにイタリア式のやり方もあれば、オフェルスのようなウィーン式もある。あるいはメルヴィルのようにニューヨーク式もあるだろう。しかしフランス映画を撮るのに真にフランス式であり続けたのはジャック・ベッケルただ1人だけだった。」――「ジャック兄貴」ジャン＝リュック・ゴダール



幸福の設計 Antoine et Antoinette [1947年／フランス／89分／モノクロ／デジタル] 出演：ロジェ・ビゴ、クレール・マフェイ、ノエル・ロクヴェール パリの下町を舞台に若い男女とそこに暮らす市井の人々をやさしく描きだす“パリ下町三部作”の第1作。ベッケル監督の熟練した手腕がいかに発揮され、1948年カンヌ国際映画祭「恋愛心理映画」賞を受賞するなど高い評価を受けた珠玉の一作。



七月のランデヴー Rendez-vous de juillet [1949年／フランス／100分／モノクロ／デジタル] 出演：ダニエル・ジェラン、ブリジット・オペール、モーリス・ロネ 1949年、パリ。探検家への夢を両親に反対されたルシアンは、家を出て探検隊に参加する準備を進める。一方、恋人のクリスティーズも女優への夢を実現すべく動き始めるが…。ベッケルによる青春群像の傑作。



怪盗ルパン Les Aventures d'Arsène Lupin [1957年／フランス／104分／カラー／デジタル] 出演：ロベール・ラムルー、ジョルジュ・シャマラ、O・E・ハッセ 1910年、パリ。怪盗アルセーヌ・ルパンは、得意の変装を武器に次々とお宝を手に入れる。ルパンの姿を見初めた美しい貴婦人ミナ・フォン・クラフトは、自分が仕えるドイツ皇帝カイゼル2世のもとに彼を呼び寄せ、ある依頼を行う。人物たちの身振り、動きによって映画のみが生み出しうる感情が沸き起こる。

フランス幻想作家、ジョルジュ・フランジュ

Georges Franju, le fantastique français

ジョルジュ・フランジュ(1912-1987)は残酷さとポエジー、リアリズムと幻想が合い混じったスタイルでフランス映画の中でも特異な位置を占め、シネマテーク・フランスーズの共同創設者としても知られる。カルト的傑作『顔のない眼』のほか、日本未公開の『殺人者にスポットライト』を上映。



顔のない眼 Les Yeux sans visage [1960年／フランス／88分／モノクロ／デジタル] 出演：エディット・スコフ、ビエール・ブラスール、アリダ・ヴァリ ジェネシエ博士は、交通事故で失ってしまった娘のクリスティアーヌの美しい顔を取り戻そうと日々研究を重ねているが、それは、他の若い女性を犠牲にし、その皮膚を剥ぎ取って移植する事に他ならなかった。



殺人者にスポットライト Pleins feux sur l'assassin [1961年／フランス／93分／モノクロ／デジタル] 出演：ビエール・ブラスール、パスカル・オードレ、マリアヌ・コッホ フランジュの長編3作目。『めまい』や『顔のない眼』の原作者ビエール・ボワローの『彼奴を殺せ』を映画化したサスペンス作品。モーリス・ジャールの音楽のリズムに乗って、裕福な伯爵のミステリアスな死と遺産相続人たちの波瀾が語られる。

ゴーマン流フレンチコメディ

Comédie à la Gaumont

スラップスティック・コメディを数々生み出したジョルジュ・ロートネル(『ハジキを持ったおじさんたち』)やフレンチコメディ映画界の巨匠ジェラール・ウーリー(『大頭脳』、『大乱戦』)ら映画監督たち、そしてフランスでは誰もが最高の喜劇俳優と評するルイ・ド・フェネスによって、ゴーマン製作で多くの名作フレンチコメディが誕生した。



パリ大混戦 Le Grand Restaurant, de Jacques Besnard [1968年／フランス／86分／カラー／デジタル] 監督：ジャック・ベスナール 出演：ルイ・ド・フェネス、ベルナール・ブリエ、ファルコ・リルイ・ド・フェネス脚本・主演のフランスでカルト的人気のコメディ。セブティムは、自身の名を冠したパリの有名な大レストラン「シェ・セブティム」の支配人。ある日、店に訪れた南米の某国の大統領ノヴァレスが忽然と消えてしまい…。

ゴーマン映画を代表し、フランスで絶大な人気を誇る名作コメディ3作品『大頭脳』『パリ大混戦』『大乱戦』特集放送！BS10スターチャンネルにて7月4日(水)午前11:00ほか放送 <https://www.star-chn.jp/>

その他の傑作たち

Les Autres chefs-d'œuvres



裁かるジャンヌ La Passion de Jeanne d'Arc, de Carl Theodor Dreyer [1928年／フランス／97分／モノクロ／デジタル] 監督：カール・テオドア・ドライヤー 出演：ルネ・ファルコネッティ、ウジェーヌ・シルバン イギリスの侵略からフランスを救ったジャンヌ・ダルクが、宗教裁判によって処刑されるまでの長い一日を、緊迫感溢れる映像で描いたドライヤーのサイレント映画の到達点。



悪魔の手 La Main du diable, de Maurice Tourneur [1943年／フランス／81分／モノクロ／デジタル] 監督：モーリス・トゥルヌール 出演：ビエール・フレネー、ジョセリーヌ・ガエル 山中にひっそりと佇むホテルに、ひとりの男が小さな箱を抱えてやって来た。停電中に箱が消えてしまい男は慌てふためく。名匠トゥルヌールがゲーテのファウスト伝説からヒントを得て監督した40年代の代表的なファンタジック・ホラーの傑作。



この手紙を読むときは Quand tu liras cette lettre, de Jean-Pierre Melville [1953年／フランス／107分／モノクロ／デジタル] 監督：ジャン＝ピエール・メルヴィル 出演：ジュリエット・グレコ、フィリップ・ルメール、ダニエル・コーシー 南仏カンヌ。元修道女のテレーズとその妹、そしてジゴロのボクサーの運命が絡み合うメロドラマ。メルヴィルが唯一自ら脚本を手がけず、雇われ監督として演出に徹した作品。グレコ演じるテレーズの心の揺れ動きが張り詰めた雰囲気の中で描きだされている。



パリ横断 La Traversée, de Paris de Claude Autant-Lara [1956年／フランス／83分／モノクロ／デジタル] 監督：クロード・オートン＝ララ 出演：ジャン・ギャバン、プールヴィル、ルイ・ド・フェネス 1942年、ドイツ占領下。闇市の仕事を引き受けた失業中のタクシー運転手マルタンは、酒場でグランジルを誘うが…。名優たちによって演じられる対照的な2人のコミカルな掛け合いが楽しいオートン＝ララの隠れた名作。



不滅の物語 Une histoire immortelle, d'Orson Welles [1978年／フランス／カラー／デジタル] 監督：オーソン・ウェルズ 出演：ジャンヌ・モロー、オーソン・ウェルズ、ロジェ・コジジョ ウェルズは自らを全能と信じて架空の物語を現実にしようとする年輩いた豪商クレイ氏を演じ、盟友のジャンヌ・モローが共演。音楽にエリック・サティの楽曲が用いられている。今回は編集の異なるフランス語版(50分)と英語版(58分)を各会場で上映。

3 ゴダールの宇宙 La Galaxie godardienne

「大きい歴史というのは映画の歴史のことだ。そして映画というのは、20世紀において解決された19世紀の問題だ。この歴史がほかの歴史より大きいものであるのは、この歴史は投射される(＝映写される)からだ。(…)ラングロワが『吸血鬼ノスフェラトゥ』を映写するとき、ノスフェラトゥが住む小さな町の中に、すでに1944年の時点でベルリンの廃墟を見取ることができる。投射がそこでなされるわけだ。」――ジャン＝リュック・ゴダール(1930-)



はなればなれに Bande à part [1964年／フランス／95分／モノクロ／デジタル] 出演：アンナ・カリナ、クロード・ブラスール、サミ・フレイ アメリカの犯罪小説を元にした、型破りの3人組による恋と犯罪の狂想曲。ミシェル・ルグランの音楽にのって、カフェでのマディソン・ダンスのシーンや、実際にルーブル美術館でゲリラ撮影された全力疾走のシーンは、映画ファンに今も語り継がれている。



ウィークエンド Week-end [1967年／フランス／104分／カラー／デジタル] 出演：ミレイユ・ダルク、ジャン＝ピエール・レオー、アンヌ・ヴィアゼムスキー パリに住むブルジョワ夫婦のロランとコリンヌは毎週末に田舎にある彼女の実家へ向かう。しかし渋滞に巻き込まれ、狂気と悪夢の週末旅行に…。ゴダールのヌーヴェル・ヴァーグ期の活力のすべてが結集した傑作。



右側に気をつけろ Soigne ta droite [1987年／フランス＝スイス／82分／カラー／デジタル] 出演：ジャン＝リュック・ゴダール、フランク・ペリエ、ジェーン・バーキン 自殺志願者の機長が操り、奇矯な登場人物たちが乗る小型飛行機で出発する「白痴」と、自分を異星人でないかと疑う「男」が遭遇するシーンの数々。そして、ロックバンド〈レ・リタ・ミツコ〉のアルバム録音。これら3つの系列が、巧みに捻り合わせられる。

4 モーリス・ピアラ、大いなる心(1925-2003) Maurice Pialat, un grand cœur

現代のフランスの映画監督たちにおそらくもっとも影響を与え続けている作家の一人でありながら、日本ではまだその全貌が知られていない巨匠モーリス・ピアラ(1925-2003)の日本未公開の自伝的作品2本と、フランス映画史に残る傑作『ヴァン・ゴッホ』を上映。「あなたの眼差しは、カメラに、女の子や男の子たちを、そして空間と時間と色彩を、血気盛んな子供のように追いかけて行かせる大きな心のようだ。」――ジャン＝リュック・ゴダール、『ヴァン・ゴッホ』公開時にピアラに宛てた手紙から



私たちは一緒に年をとることはない Nous ne vieillirons pas ensemble [1972年／フランス＝イタリア／107分／カラー／デジタル] 出演：ジャン・ヤヌス、マルレーヌ・ジョベール 映画監督のジャンは、6年前からカトリヌと付き合っているが、いまだに妻のフランソワーズと生活を共にしている…。ピアラの自伝的作品であり、『ママと娼婦』と並び、映画史に残るカッブルについての傑作。



ルル Loulou [1980年／フランス／101分／カラー／デジタル] 出演：イザベル・ユベール、ジェラール・ドバルデュ、ギィ・マルシャン 広告業を営む夫アンドレと裕福で快適な生活を送りながらも、退屈を感じていたネリーは、ダンス・パーティーでルルという「ごろつき」と知り合い、身体的に強く結ばれてゆく。ユベール、ドバルデュの魅力が余すところなく発揮され、カンヌ国際映画祭で熱狂的に迎えられた。



ヴァン・ゴッホ Van Gogh [1991年／フランス／160分／カラー／デジタル] 出演：ジャック・デュトロン、アレクサンドラ・ロンドン、ベルナール・ル・コク 映画監督になる前、画家でもあったピアラが最も敬愛していたゴッホを描く。療養のため訪れたオーヴェルの村で、医師ガシエの診察を受けたゴッホは、そこで娘のマルグリットと出会う…。おおらかで成熟した演出で、ひとりの男の人生の片鱗を見事に描いた壮大かつ親密な要素を兼ね備える傑作。

5 世界に開かれるゴーマン 1975年から現在まで Une ouverture sur le monde : de 1975 à nos jours

1975年、34歳の若きダニエル・トスカン・デュ・ブランティエがゴーマンのジェネラル・ディレクターに就任し、1985年までロベール・ブレッソン(『たぶん悪魔が』)、ジョゼフ・ロージー(『ドン・ジョヴァンニ』、『鱈』)、モーリス・ピアラのほとんどの作品を自らプロデュースしたほか、イングマル・ベルイマン(『ファニーとアレクサンデル』)、フェデリコ・フェリーニ(『女之都』)、ファスビンダー(『ケレル』)など世界の巨匠たちの作品がトスカン時代のゴーマンによって製作あるいは配給された。ゴーマンは現在でも、大衆的な作品から作家主義的な作品まで、あらゆるジャンル、作風の映画にアプローチし続けている。



ラ・ブーム La Boum, de Claude Pinoteau [1980年／フランス／110分／カラー／デジタル] 監督：クロード・ピノトー 出演：ソフィー・マルソー、クロード・ブラスール、ブリジット・フォッセー ヴィックはブーム(パーティー)に誘われることを夢見る13歳。80年代フランスのカルチャーを背景に、少女が青春の入り口で味わう喜びや悲しみが繊細に描かれた本作でデビューしたソフィー・マルソーは、日本でも大人気となり、記録的なヒットとなった。



鱈 La Truite, de Joseph Losey [1982年／フランス＝日本／104分／カラー／デジタル] 監督：ジョゼフ・ロージー 出演：イザベル・ユベール、ジャン＝ピエール・カッセル、ジャンヌ・モロー 男たちを無邪気挑発しても、身を委ねることがないフレデリックは、偶然出会った実業家の日本出張に同行するのだが…。性と権力を巡る駆け引きと欲望のゲームを悲劇でも喜劇でもない突き放した視線で見据えるロージーの演出が光る。



ケレル Querelle, de Rainer Werner Fassbinder [1985年／西ドイツ＝フランス／108分／カラー／デジタル] 監督：ライナー・ヴェルナー・ファスビンダー 出演：ブラッド・デイヴィス、フランク・ネロ、ジャンヌ・モロー、ローラン・マレ ジャン・ジュネの『ブレストの乱暴者』を映画化したファスビンダーの遺作。大西洋に面した街ブレストを舞台に、若くたくましい水兵ケレルを巡って巻き起こる男たちの性と暴力に満ちた愛憎を描く。



ベティ・ブルー インテグラル 完全版 37°2 le matin, de Jean-Jacques Beineix [1986年／フランス／178分／カラー／デジタル] 監督：ジャン＝ジャック・ベネックス 出演：ジャン＝ユグ・アングラード、ベアトリス・ダル 修理工のゾルグとウエイトレスのベティが出会い、恋に落ちた。ゾルグが小説家となり、彼との子どもを夢見るベティだが…。世界中にセンセーションを巻き起こした衝撃のラブ・ストーリー。本作は約1時間の未公開シーンを復元したノーカット完全版。



カミーユ、愛はふたたび Camille redouble, de Noémie Lvovsky [2012年／フランス／118分／カラー／デジタル] 監督：ノエミルボフスキー 出演：サミール・ゲスミ、ジュディット・シュムラ、ヴァンサン・ラコスト 夫と別居中で失意の女優のカミーユは、大晦日のパーティーへと出かける。目を覚ますと、16歳の自分にタイムスリップして！戸惑いながらもカミーユはふたたび青春を謳歌し始める。フランスで大ヒットを記録したルボフスキーの監督・主演作。



愛の犯罪者 L'Amour est un crime parfait, d'Arnaud et Jean-Marie Larrieu [2014年／フランス＝スイス／111分／カラー／デジタル] 監督：アルノー＆ジャン・マリー・ラリユー 出演：マチュー・アマルリック、カリン・ヴィアール、マイウエン 大学教授に忍び寄る事件の影。失踪した女子大生の行方は…？ マチュー・アマルリックが、雄大な自然を背景に、自らの狂気、女性たちの愛欲の中を彷徨うラブ・サスペンス。



呼吸 -友情と破壊 Respire, de Mélanie Laurent [2014年／フランス／92分／カラー／デジタル] 監督：メラニー・ロラン 出演：ジョゼフィーヌ・ジャビ、ルー・ド・ラージュ、イザベル・カレ シャルリは控えめで成績優秀な高校生。高校最終年のある日、美しく個性的なサラが転校してくる。2人は急速に仲を深めて行くが、彼女達の関係は次第に危うさを露呈していく。



フランス映画への旅 Voyage à travers le cinéma français, de Bertrand Tavernier [2016年／フランス／190分／カラー／デジタル] 監督：ベルトラン・タヴェルニエ 映画史に造詣が深いことで有名な映画監督ベルトラン・タヴェルニエが、ジャック・ベッケル、ジャン・ルノワール、ジャン＝ピエール・メルヴィルなど、人生において記憶に残るフランス映画や監督について語りながら、フランス映画史を旅する。

Rétrospective

東京会場:アンスティチュフランセ東京

Institut français du Japon - Tokyo

6/14(木)	14:00	フランス映画への旅(190分)
	18:00	◆オープニング 新学期操行ゼロ(49分) アタラント号(88分) *上映後、須藤健太郎によるトークあり
6/15(金)	15:00	呼吸(92分)
	17:15	不滅の物語 フランス語版(50分)
	19:00	ウィークエンド(104分)
6/16(土)	12:00	幸福の設計(89分)
	14:00	快楽(93分)
6/29(金)	16:45	右側に気をつけろ(82分)
	19:00	怪盗ルパン(104分)
6/30(土)	14:30	カミュー、愛はふたたび(118分)
	17:15	ラ・ブーム(110分)
7/1(日)	11:45	バリ大混戦(86分)
	14:00	愛の犯罪者(111分)
	17:00	罪の天使たち(97分)
7/5(木)	12:30	カミュー、愛はふたたび(118分)
	15:15	ベティ・ブルー インテグラル完全版(178分)
	19:00	はなればなれに(95分)
7/6(金)	14:00	パリ横断(83分)
	16:15	この手紙を読むときは(107分)
	19:00	悪魔の手(81分)
7/7(土)	13:00	ヨシワラ(92分)
	15:15	明日はない(83分)
	17:30	マイエルリンクからサラエヴォへ(95分) *上映後、青山真治、クリス・フジワラによるトークあり
7/8(日)	11:15	トニ(90分)
	13:30	ヴァン・ゴッホ(160分)
	17:00	鱒(104分)
7/13(金)	13:30	ケレル(108分)
	16:00	アリス・ギイ短編集(75分) 混血児ダイナ(51分) 計126分
	19:00	ある女(103分) *上映後、濱口竜介とのディスカッションあり(司会:坂本安美)
7/14(土)	11:45	ファントマ 第1話:ファントマ(59分) 第2話:ファントマ対ジューヴ警部(64分) 計123分
	15:00	ファントマ 第3話:ファントマの逆襲(98分)
	17:30	ファントマ 第4話:ファントマ対ファントマ(62分) 第5話:ファントマの偽判事(75分) 計137分 *上映後、岡田秀則によるトークあり
7/15(日)	12:00	裁かるジャンヌ(97分)
	14:30	たそがれの女心(100分)
	17:00	とらんぶ譚(81分)
7/20(金)	16:30	七月のランデブー(100分)
	19:00	殺人者にスポットライト(93分)
7/22(日)	12:00	白い足(104分)
	14:30	ルル(101分)
	17:00	私たちは一緒に年をとることはない(107分) *上映後、須藤健太郎によるトークあり

* プログラムは事情により変更される事があります。予めご了承ください。
 * 入場料金:一般1200円/学生、ジャック&ベティ会員:800円/会員:500円
 * 開場:15分前
 * チケット販売時間:上映当日各回の30分前から上映開始10分後まで。チケット販売時間内には、当日すべての回のチケットをご購入いただけます。全席自由。整理番号順での入場とさせていただきます。また、上映開始10分後以降の入場は、他のお客さまへの迷惑となりますので、固くお断りいたします。

【東京会場お問合せ】アンスティチュ・フランセ東京
 新宿区山谷船河原町15 Tel:03-5206-2500 www.institutfrancais.jp/tokyo/

横浜会場:横浜シネマ・ジャック&ベティ

Yokohama Cinéma Jack & Betty

6/16(土)	11:05	罪の天使たち(97分)
	13:15	夢を見ましょう(80分)
6/17(日)	11:05	デジレ(98分)
	13:15	レ・ヴァンピール 吸血ギャング団 第1部:首なし死体(39分) 第2部:殺しの指輪(17分) 第3話:赤い暗号文(48分) 計104分 *柳下美恵によるピアノ伴奏付き
6/18(月)	11:05	夢を見ましょう(80分)
	13:15	レ・ヴァンピール 吸血ギャング団 第4部:幽霊(38分) 第5部:死者の逃亡(45分) 第6部:幻惑する眼(72分) 計155分 *柳下美恵によるピアノ伴奏付き
6/19(火)	11:05	レ・ヴァンピール 吸血ギャング団 第7部:サタナス(55分) 第8部:稲妻の主(65分) 計120分 *柳下美恵によるピアノ伴奏付き
	13:30	デジレ(98分)
6/20(水)	11:05	罪の天使たち(97分)
	13:15	レ・ヴァンピール 吸血ギャング団 第9部:毒の人(60分) 第10話:血に染まった結婚(68分) 計128分 *柳下美恵によるピアノ伴奏付き
6/28(木)	13:45	抵抗(100分)
	16:00	不滅の物語 英語版(58分)
6/29(金)	13:45	鱒(104分)
	16:00	ベティ・ブルー インテグラル完全版(178分)
6/30(土)	13:45	不滅の物語 英語版(58分)
	15:30	ウィークエンド(104分)
7/1(日)	13:45	たそがれの女心(100分)
	16:00	快楽(93分)
7/2(月)	13:45	抵抗(100分)
	16:00	幸福の設計(89分)
7/3(火)	13:45	ヴァン・ゴッホ(160分)
	17:15	フレンチ・カンカン(105分)
7/4(水)	13:45	とらんぶ譚(81分)
	15:45	フレンチ・カンカン(105分)
7/5(木)	13:45	裁かるジャンヌ(97分)
	15:45	右側に気をつけろ(82分)
7/6(金)	13:45	快楽(93分)
	16:00	たそがれの女心(100分)
7/7(土)	13:30	ラ・ブーム(110分)
	15:45	怪盗ルパン(104分)
7/8(日)	13:30	カミュー、愛はふたたび(118分)
	16:00	バリ大混戦(86分)
7/9(月)	13:30	カドリュー(95分)
	15:45	愛の犯罪者(111分)
7/10(火)	13:30	はなればなれに(95分)
	15:45	明日はない(83分)
7/11(水)	13:30	顔のない眼(88分)
	15:30	悪魔の手(81分)
7/12(木)	13:30	パリ横断(83分)
	15:30	ヨシワラ(92分)
7/13(金)	13:30	殺人者にスポットライト(93分)
	15:45	七月のランデブー(100分)

* プログラムは事情により変更される事があります。予めご了承ください。
 * 入場料金:一般1200円/シニア1100円/学生、ジャック&ベティ会員、アンスティチュ・フランセ会員:800円
 * 開場:10分前
 * チケット販売:上映日の1週間前より、劇場窓口にて各上映回のチケットを発売いたします。全席自由。整理番号順での入場とさせていただきます。

【横浜会場お問合せ】横浜シネマ・ジャック&ベティ
 横浜市中区若葉町3-51 Tel:045-243-9800 <http://www.jackandbetty.net>

ゴーモン映画〜映画誕生と共に歩んできた歴史〜

主催:アンスティチュ・フランセ日本、Gaumont、横浜シネマ・ジャック&ベティ 助成:アンスティチュ・フランセ パリ本部 アンスティチュ・フランセ日本 映画プログラム オフィシャル・パートナー:CNC、TV5 MONDE
 フィルム提供及び協力:アット エンタテインメント株式会社、アテナ・フランス文化センター、シネマウェーラ渋谷、ノーム、株式会社アイ・ヴィー・シー、日本大学芸術学部、株式会社スター・チャンネル、東京国際映画祭事務局、ザジフィルムズ、合同会社 是空 特別協力:マーメイドフィルム、GAGA

Rétrospective : Gaumont, depuis que le cinéma existe

Organisé par l'Institut français du Japon, Gaumont et Yokohama Cinéma Jack & Betty. Avec le soutien de : Institut français, CNC et TV5 MONDE.
 Merci à : At Entertainment, le Centre culturel de l'Athénée français, Cinema Vera Shibuya, GAGA, Cnôme, IVC, Mermaid Film, Nihon University College of Art, Star Channel, Tokyo International Film Festival, Zazie Films, Zeque Productions, LLC.

